

当講座は、以下の4つのミッションを果たすため平成22年度に広島県の寄付講座として広島大学医学部に開設されました。

### ①地域医療の教育並びに実習・研修の指導、講演会（啓発活動）

- ふるさと枠を中心とした医学部医学科生や初期研修医、後期研修医、地域の医療機関に勤務する医師、地域住民等を対象

### ②地域医療課題の調査・研究

- 地政学的特性や地域住民の受療行動の把握など

### ③地域医療課題への対応

- 地域医療に求められる医療人（医師）養成・育成システムの立案・実施など

### ④地域医療体制確保のための県内医療機関等に対するコーディネート業務と支援

- 広島県地域保健医療推進機構が行う業務に対する技術的助言・協力等

平成26年および27年度の2年間で各ミッションに対して以下のような活動を行い、成果を得ました。

- ①広島大学医学部ふるさと枠の学内における制度運営、およびふるさと枠に所属する約100名の学生の教育をおこないました。講座開設以降ふるさと枠の入試倍率は4倍前後と、義務年限型の地域枠推薦入試としては全国でもトップクラスを維持しております。ふるさと枠学生の毎週の勉強会、春・夏・冬の実習や合宿を企画・実行し、地域医療への理解の促進と仲間意識の醸成を行っています。また一般医学科生への教育については、5年生全員を県内中山間地の病院に一週間派遣する地域医療実習の運営を行いました。約240名にこの実習を行い、ほぼ100%が地域医療をよりよく知ることができたと評価し、4分の1以上の学生について将来地域医療に従事する意向が増加しました。現地指導医のためのFDも毎年開催しました。その他、3年生、4年生への講義も行いました。
- ②専門医療の地理的分布と集約化に関する研究等を行い論文を発表し、国際誌に掲載されました（合計インパクトファクター18.5）。また全国42大学が加盟している全国地域医療教育協議会の「地域枠出身医師のコホート研究」の本部として文部科学省、厚生労働省、全国医学部長病院長会議と共同しながら実施しております。これら研究に対して研究代表者として文部科学研究費の助成を受けました。その他分担研究者として厚生労働科学研究費、文部科学研究費、民間研究助成金を受給しました。
- ③義務年限内のふるさと枠出身医師の進路を示したキャリアプランの周知を図るとともに、これをベースに、新たな専門医制度への対応も考慮しつつ、地域医療支援センター長および医学部長の指導のもとで学内外の意向も配慮した「ふるさと枠医師等配置調整手順」が作成され関係機関の承認をいただきました。平成28年度からはこの手順に基づいて、ふるさと枠卒業医師等の配置が決定されていくこととなります。また、ふるさと枠卒業医の初期研修のマッチングに関する考え方も集約させることが出来ました。

④地域医療支援センターと緊密な連携を取りながら、地域医療セミナーの共同開催あるいは広島県へき地医療支援機構運営会議、若手医師等育成支援事業先行委員会、ふるさと卒医師等キャリア支援委員会などにおいて当講座スタッフが委員を務めました。また、広島県地域保健対策協議会では、医師不足対策専門委員会、医療・介護連携推進専門委員会の委員を務めました。広島県における地域包括ケア体制の確保に関しては、県医師会在宅医療推進委員会委員長、広島県地域包括ケア推進センター多職種連携推進WG・看取り推進部会長、広島市在宅医療・介護連携推進委員会委員長などを務めました。

## 2

## 講座スタッフ



教授 竹内 啓祐



准教授 松本 正俊



講師 服部 文子

事務 石川 典子

## ミッション①

地域医療の教育並びに実習・研修の指導、講演会（啓発活動）：ふるさと枠を中心とした医学部医学科生や初期研修医、後期研修医、地域の医療機関に勤務する医師、地域住民等を対象

## A ふるさと枠の運営・教育

## ①地域医療研究会（ふるさと枠セミナー）

講座開設直後の平成22年4月より昼食をとりながらふるさと枠全員でミーティングをしています。毎週一回行っています。医療面接の実習、実技の実習、臨床知識のミニ講義、現地実習のための準備、将来のキャリアプランや地域医療をテーマとした話し合いなどを行っています。ふるさと枠学生の将来への不安解消、モチベーション維持、アイデンティティの確立、仲間意識の醸成につながるよう心がけています。当講座スタッフおよび広島県地域保健医療推進機構スタッフも参加いたしました。

## ～後期スケジュール～

今年度後期は、医療に関することとディスカッションを多く取り入れてみました。  
前期に引きつづき同じ組の人とたくさんコミュニケーションをとっていきましょう！

|          |         |                    |
|----------|---------|--------------------|
| 10/7（水）  | 必修      | ゲーム                |
| 10/14（水） | 休み      |                    |
| 10/21（水） | 必修      | 松本先生のお話            |
| 10/28（水） | 必修      | Let's discussion!! |
| 11/4（水）  | 休み      |                    |
| 11/11（水） | 必修      | 医療面接①              |
| 11/18（水） | 必修      | 医療面接②              |
| 11/25（水） | 必修（奇数班） | 医療手技①（挿管・除細動）      |
| 12/2（水）  | 必修（偶数班） | 医療手技②（挿管・除細動）      |
| 12/9（水）  | 必修      | 医療系ドラマを見て考える       |
| 12/16（水） | 必修      | 冬実習の説明             |
| 1/6（水）   | 休み      |                    |
| 1/13（水）  | 必修      | 2年生担当の回            |
| 1/20（水）  | 必修      | カンファレンスをやってみる①     |
| 1/27（水）  | 必修      | カンファレンスをやってみる②・まとめ |

※スケジュールは変わることもあるかもしれません。変更があれば連絡します。

後期はすべて必修としました。お弁当は毎回出ます。  
11/25と12/2は奇数班と偶数班に分かれて同じことをします（器具が足りないため）。

この他、3月に追いコンを予定しています。

また、冬実習は12月27日、28日（1泊2日）となりました。

詳しい日程は追って連絡しますので、スケジュールを空けておいてください。

※2期生、3期生、4期生の方は必修の日も含めて自由参加とします。  
今年度は出席確認をとりません。昼食は各自でご用意ください。





## ②夏季実習（地域医療セミナー）

毎年夏季休暇中に本講座、広島県、（公財）広島県地域保健医療推進機構、広島県国民健康保険診療施設協議会の共催で地域医療現地実習を行いました。

平成26年8月18日、19日、20日、21日県内中山間地の医療機関15カ所で泊まり込みの実習を行いました。参加者は本学ふるさと枠学生、自治医科大学学生、他大学所属の広島県奨学生など85名で、4名ごとに分かれて各診療所で実習を行いました。最終日は大学に集合して実習報告を行い、中山間地の医療について学んだことを共有しました。優れた報告プレゼンテーションを表彰いたしました。実習後の評価では96%の学生が将来のへき地勤務に肯定的な回答をしていました。

### ※参加者

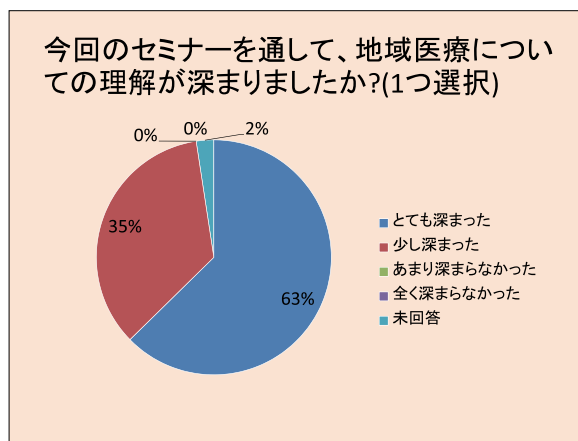
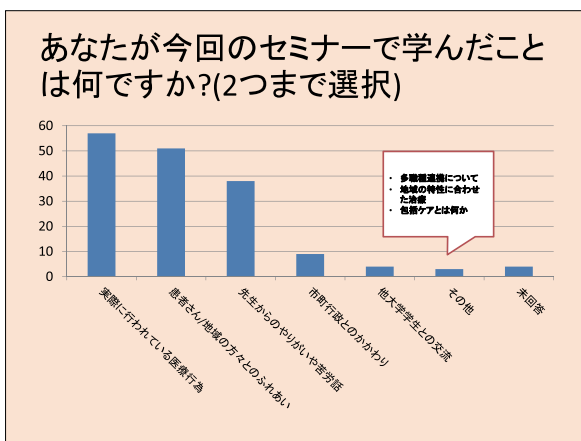
| 学 年 | 自治医科大学 | 広島大学ふるさと枠 |        | 岡山大学地域枠 | 県奨学生 | 市町奨学生 |
|-----|--------|-----------|--------|---------|------|-------|
|     |        | 広島県コース    | 岡山県コース |         |      |       |
| 1年生 | 2人     | 18人       | 2人     | 1人      | 0人   | 0人    |
| 2年生 | 3人     | 18人       | 2人     | 0人      | 0人   | 0人    |
| 3年生 | 1人     | 12人       | 2人     | 1人      | 0人   | 0人    |
| 4年生 | 4人     | 15人       | 1人     | 0人      | 2人   | 0人    |
| 5年生 | 1人     | －         | －      | －       | －    | －     |
| 小 計 | 11人    | 63人       | 7人     | 2人      | 2人   | 0人    |
| 合 計 |        |           |        |         |      | 85人   |

※他、広島大学医学部保健学科看護学専攻2名参加

### ※実施医療機関一覧（県内15医療機関）

| 区 分 | 診療所コース      |       | 病院コース       |       |
|-----|-------------|-------|-------------|-------|
|     | 医療機関名       | 所 在   | 医療機関名       | 所 在   |
| 西 部 | 吉 和 診 療 所   | 廿日市市  | 安 芸 太 田 病 院 | 安芸太田町 |
|     | 雄 鹿 原 診 療 所 | 北広島町  |             |       |
| 南 部 | 越 智 医 院     | 呉 市   |             |       |
|     | 円 山 医 院     | 大崎上島町 |             |       |
|     | 田 村 医 院     | 大崎上島町 |             |       |
| 東 部 | 大 和 診 療 所   | 三 原 市 | 公立みつぎ総合病院   | 尾 道 市 |
|     | 瀬 戸 田 診 療 所 | 尾 道 市 | 沼 隈 病 院     | 福 山 市 |
| 北 部 | 甲 奴 診 療 所   | 三 次 市 | 庄原赤十字病院     | 庄 原 市 |
|     | 総 領 診 療 所   | 庄 原 市 | 西 城 市 民 病 院 | 庄 原 市 |
|     |             |       | 神石高原町立病院    | 神石高原町 |

### ※実習後アンケート







平成27年8月17日、18日、19日、20日 昨年同様に県内中山間地の医療機関16カ所で泊まり込みの実習を行いました。本学ふるさと枠学生、自治医科大学学生、他大学所属の広島県奨学生など86名が参加しました。4人4組の小グループで医療機関を訪問し、実習内容は学生自身があらかじめ企画しました。最終日は広島大学に集合して各班の実習報告を行い、学んだことを共有しました。優れた報告プレゼンテーションを表彰しました。

#### ※参加者

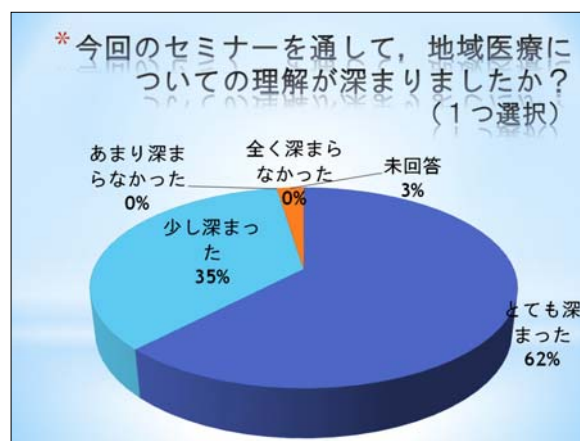
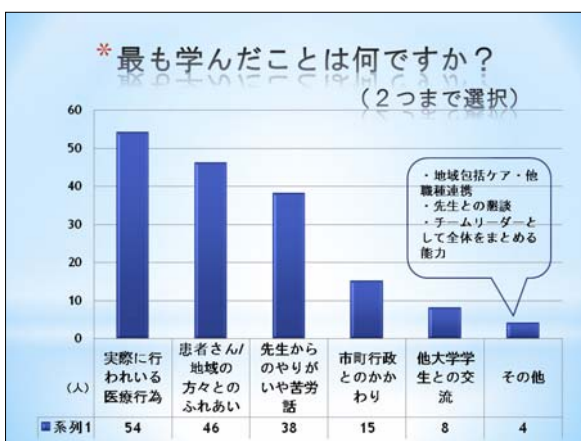
| 学 年 | 自治医科大学 | 広島大学ふるさと枠 |        | 岡山大学地域枠 | 県奨学生 | 市町奨学生 |
|-----|--------|-----------|--------|---------|------|-------|
|     |        | 広島県コース    | 岡山県コース |         |      |       |
| 1年生 | 3人     | 18人       | 2人     | 2人      | －    | 0人    |
| 2年生 | 2人     | 15人       | 2人     | 1人      | 0人   | 0人    |
| 3年生 | 4人     | 18人       | 2人     | 0人      | 0人   | 0人    |
| 4年生 | 1人     | 11人       | 1人     | 1人      | 0人   | 0人    |
| 5年生 | 3人     | －         | －      | －       | －    | －     |
| 小 計 | 13人    | 62人       | 7人     | 4人      | 0人   | 0人    |
| 合 計 |        |           |        |         |      | 86人   |

※他、広島大学医学部保健学科看護学専攻2名参加

#### ※実施医療機関一覧（県内16医療機関）

| 区 分 | 診療所コース      |       | 病院コース         |       |
|-----|-------------|-------|---------------|-------|
|     | 医 療 機 関 名   | 所 在   | 医 療 機 関 名     | 所 在   |
| 西 部 | 吉 和 診 療 所   | 廿日市市  | 安 芸 太 田 病 院   | 安芸太田町 |
|     | 雄 鹿 原 診 療 所 | 北広島町  |               |       |
| 南 部 | 越 智 医 院     | 呉 市   |               |       |
|     | 円 山 医 院     | 大崎上島町 |               |       |
|     | 田 村 医 院     | 大崎上島町 |               |       |
| 東 部 | 森 本 医 院     | 呉 市   |               |       |
|     | 大 和 診 療 所   | 三 原 市 | 公立みつぎ総合病院     | 尾 道 市 |
|     | 瀬 戸 田 診 療 所 | 尾 道 市 | 沼 隈 病 院       | 福 山 市 |
| 北 部 | 甲 奴 診 療 所   | 三 次 市 | 庄 原 赤 十 字 病 院 | 庄 原 市 |
|     | 総 領 診 療 所   | 庄 原 市 | 西 城 市 民 病 院   | 庄 原 市 |
|     |             |       | 神石高原町立病院      | 神石高原町 |

#### ※実習後アンケート



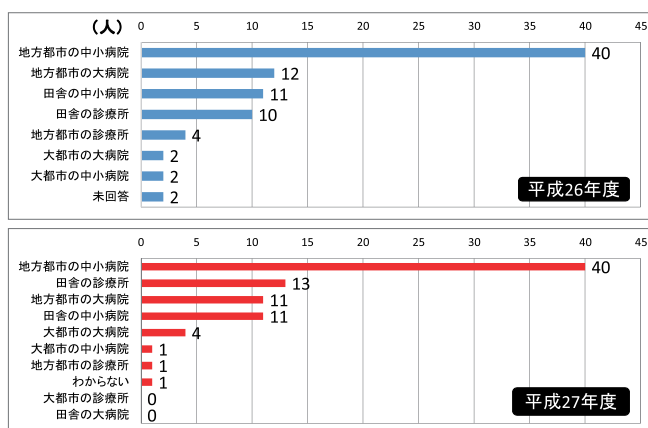




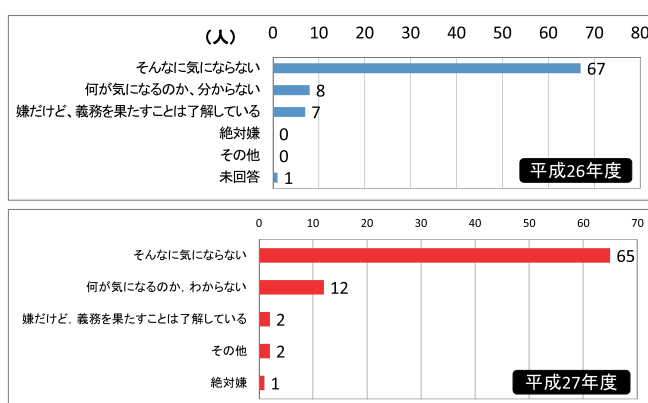


## 地域医療セミナー後アンケートまとめ

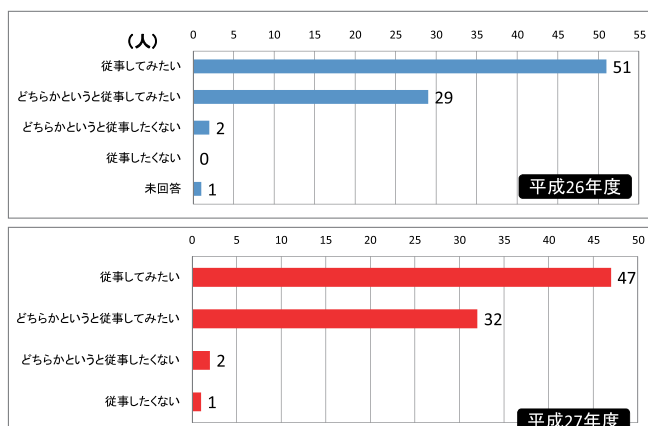
初期研修・後期研修が済んだ医師になって5－6年目の、いわゆる「油がのり始めた頃」に行きたいところはどこですか？



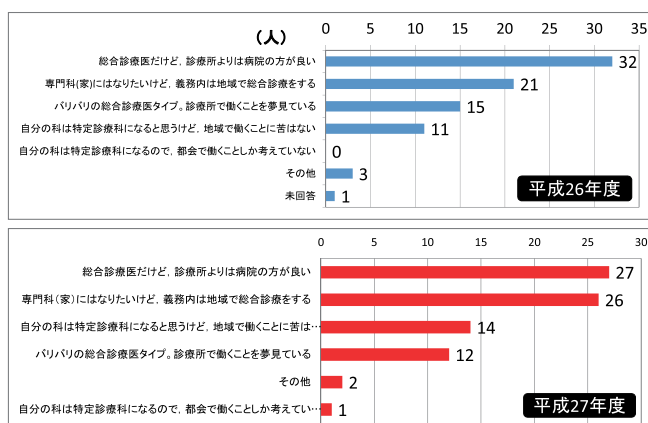
義務があることに関して、どのように考えていますか？



あなたは将来、へき地医療に従事してみたいですか？



今、自分が目指している方向性に近いものは？



### ③冬季実習（冬合宿）

本講座と（公財）広島県地域保健医療推進機構の共催で毎年冬期休暇中に合宿勉強会を行っています。

平成26年12月26日、27日 湯来町のYMCAコンフォレスト湯来で一泊の合宿を行いました。参加者は本学ふさと卒学生、自治医科大学学生など75名でした。初日は安佐市民病院集中治療部の世良昭彦先生から災害医療のレクチャーがあり、このテーマでグループワークも行いました。続いて、学生達の企画によるゲームを行いました。2日目は雄鹿原診療所の東條環樹先生の在宅看取りに関する講演を行い、グループワークも行いました。97%の学生がこの合宿に満足したと評価しました。





平成27年度は12月27日、28日に北広島町の豊平どんぐり村で合宿を行いました。参加者はふるさと枠生、自治医科大学生、広島県奨学生68名でした。初日は自治医科大学出身で労働衛生コンサルタント事務所を経営されている岡本和子先生に、「義務年限中の仕事と家庭の両立」について講演いただきながらグループワークを行い、午後は広島県地域保健医療推進機構の古川正愛先生に同様のテーマで講演とグループワークをしていただきました。初日の最後は学生企画のグループワークを行いました。2日目は映画「海を飛ぶ夢」を観賞し、尊厳死についてのディスカッションを行いました。





#### ④海外研修

ふるさと卒学生に海外の地域医療について見聞を広めてもらうことを目的とし、海外研修を行いました。

平成26年8月24日～平成26年8月31日、4名のふるさと卒学生を引率してネパールを訪問しました。2012年の訪問時同様に日本人医師の樋戸健次郎先生に受け入れていただきました。今回も大都市と僻地の両方の医療機関も見学し両者の違いを実感しました。医療資源に恵まれない環境であっても創意工夫を凝らして必要な医療を提供しようとする姿勢は、日本の地域医療にも通じるものがあります。今回も多くの学びを得た研修となりました。

現地では、首都カトマンズのトリブバン大学医学部および付属病院を訪問。医学部長および医学教育担当者から説明を受けました。隣接する小児病院の見学も行いました。その後、駐カトマンズ日本大使







館およびJICA事務所を訪問し、スタッフから現地での活動内容の説明を受けました。アンナプルナ脳外科病院では広島大学出身の院長先生による回診に同行しました。

その後、へき地のラムジュン病院を訪問し、病院長とともに施設および診療を見学しました。

## ⑤春季実習

毎年春季休暇中に泊まり込みの現地実習を行っています。春季実習は希望者のみの参加としています。

平成27年3月下旬、計11名が1～3ずつ中山間地域の8施設を訪問し、原則1泊2日の実習をさせていただきました。施設ごとに特徴的なプログラムを作成していただきました。（ご協力いただいた施設：大和診療所、公立みつぎ総合病院、雄鹿原診療所、市立三次中央病院、安佐市民病院、瀬戸田診療所、府中市立湯が丘病院、甲奴診療所）

平成28年3月下旬、2名が沼隈病院で1泊2日の実習をさせていただきました。

## ⑥個別面談

平成26年から27年にかけてふるさと枠の1年生および4年生全員に対し、学生2名と教員1～2名が昼食を伴にする形式で面談を行い、学業のこと、大学生活のこと、将来の進路のことなどを相談しました。6年生については一人一人について教員2名で個別面談を行い、初期臨床研修やその後の進路のことなどを指導・相談しました。

| プログラム    | 内容                | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
|----------|-------------------|----|----|----|----|----|----|
| ふるセミ     | 原則週1回             | ○  | ○  | ○  |    |    |    |
| 地域医療セミナー | 夏 医療現場体験（1泊2日）    | ○  | ○  | ○  | ○  |    |    |
|          | 冬 合宿で連帯感、グループワーク等 | ○  | ○  | ○  | ○  |    |    |
|          | 春 医療現場体験、希望者のみ    | ○  | ○  | ○  | ○  |    |    |
| 海外研修     | 希望者のみ             | ○  | ○  | ○  |    |    |    |
| 個別相談     | キャリアパス等指導、個別相談    | ○  |    |    | ○  |    | ○  |
| 進路指導     |                   |    |    |    | ○  | ○  |    |

ふるさと枠の教育プログラム

## ⑦ふるさと枠の学生確保、卒業生の安定確保

広島県および広島県地域保健医療推進機構と共同し、ふるさと枠の学生確保のための各種対策を行っています。具体的には受験生確保のための高等学校訪問、校生向けのパンフレット作成（毎年更新）、キャリアプラン作成のための学内外の調整を行っています。当講座開設直前の平成22年の入試では2.3倍まで落ち込んだ入試倍率ですが、当講設置後の6年間については、定員を大幅に増やしたにもかかわらず、入試倍率は4倍前後と全国の地域枠推薦入試の中でもトップクラスを維持しています。

また、順調に進級し卒業できるよう、ふるさと枠学生全員の個別面談を行ったり、個別相談を受け入れたりし、きめ細かな指導を行っています。ふるさと枠広島県コースの留年率は一般医学科生の三分の一以下となっています。さらに2学年19名がすでに卒業しましたが、医師国家試験合格率は100%を維持しております。



ふるさと枠広島県コースの定員、志願者数、入試倍率の推移



ふるさと枠案内パンフレット

### 平成21年～26年度（6年間）の進級状況

|        | 広島大学医学部医学科 | ふるさと枠広島県コース |
|--------|------------|-------------|
| 延べ学生数  | 3,976      | 264         |
| 延べ留年者数 | 104        | 2           |
| 留年率    | 2.6%       | 0.8%        |

### 平成26～27年度（2年間）の医師国家試験合格状況

|      | 広島大学医学部医学科 | ふるさと枠広島県コース |
|------|------------|-------------|
| 新卒数  | 211        | 19          |
| 合格者数 | 201        | 19          |
| 合格率  | 95.3%      | 100%        |

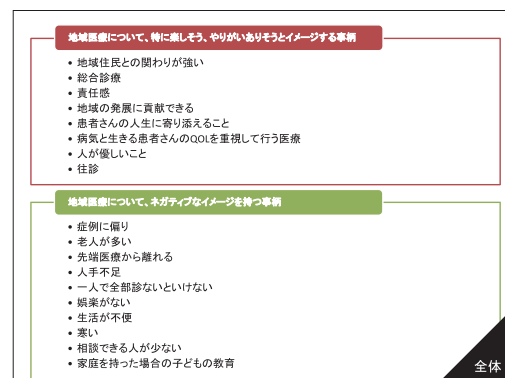
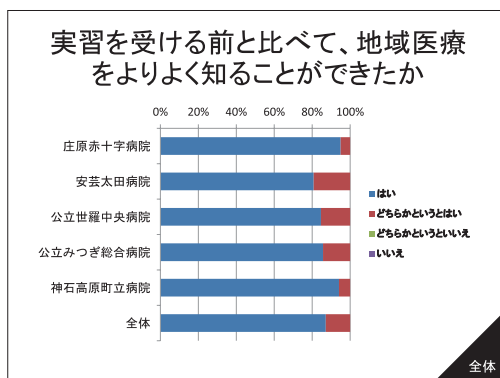
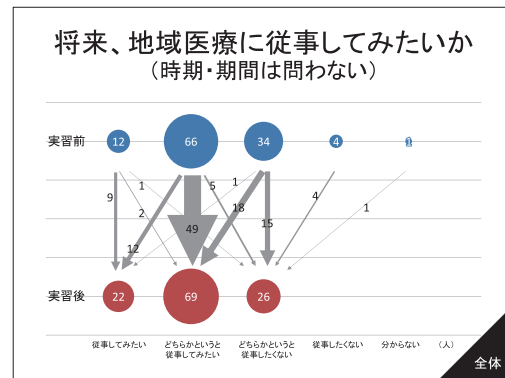
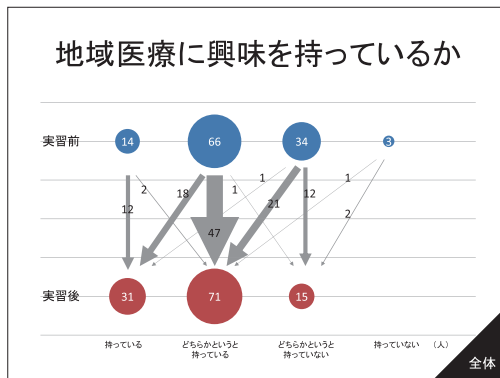
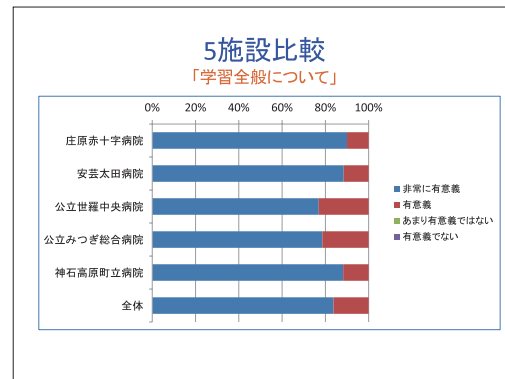
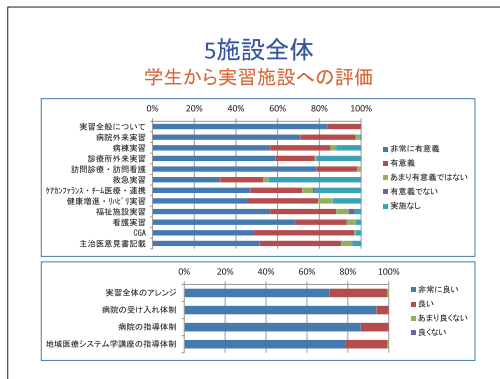


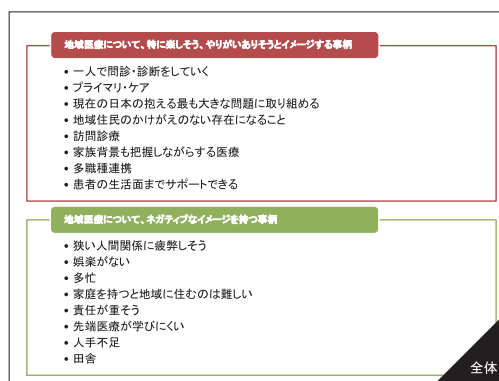
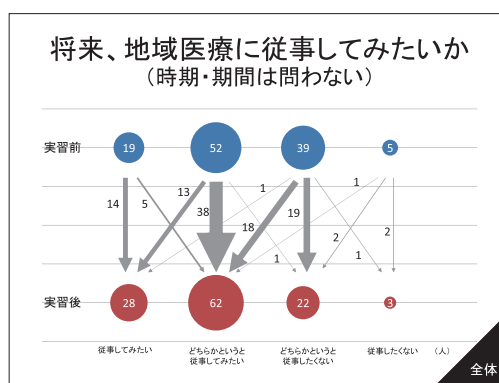
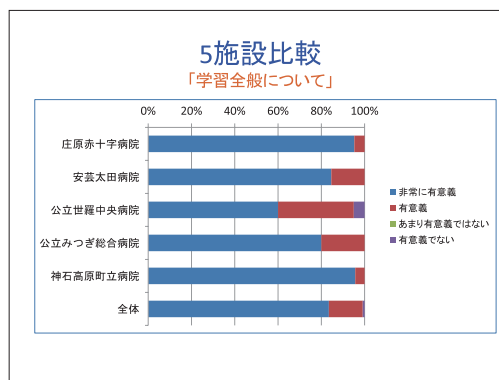
## B 一般医学科生の教育

### ①5年生地域医療実習

一般医学科5年生に対しては平成22年度よりクリニカル・クラークシップの一環として、中山間地の病院に一週間泊まり込みで行う地域医療実習を開始致しました。

平成26年度は5年生約120名全員が2名ずつに別れて庄原赤十字病院、安芸太田病院、神石高原町立病院、公立世羅中央病院、公立みつぎ総合病院のいずれかで4泊5日の現地泊り込みの実習を行いました。外来実習、看護体験、診療所見学、在宅訪問、高齢者施設見学、1次救急、ケアカンファランス等々、文科省のモデル・コア・カリキュラムを参考に、各病院の特徴をだしたプログラムを作成しました。当講座スタッフも週1回現地に赴き学生教育に携わりました。ほぼ全員の学生がこの実習により地域医療をよりよく知ることができたと評価し、実習前後で比較すると35%が地域医療に興味が増し、31%が将来地域医療に従事する意向が増加しました。







## ②4年生講義

平成26年度、27年度と臨床実習入門プログラムにおいて、地域医療実習に関する講義を竹内、松本がそれぞれ1コマずつ行いました。帝京大学の井上和男教授にも1コマ担当いただきました。

## ③3年生講義

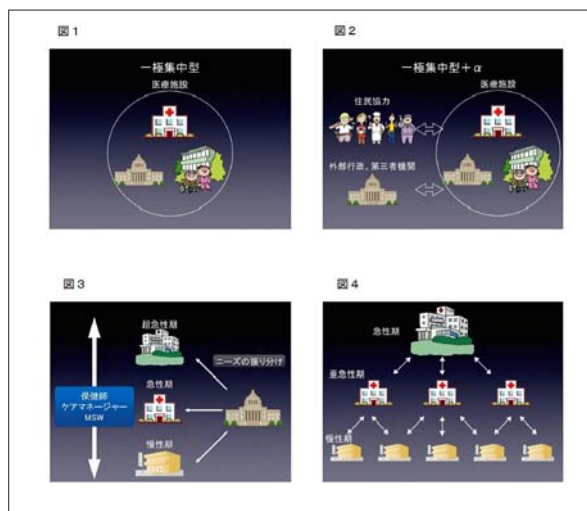
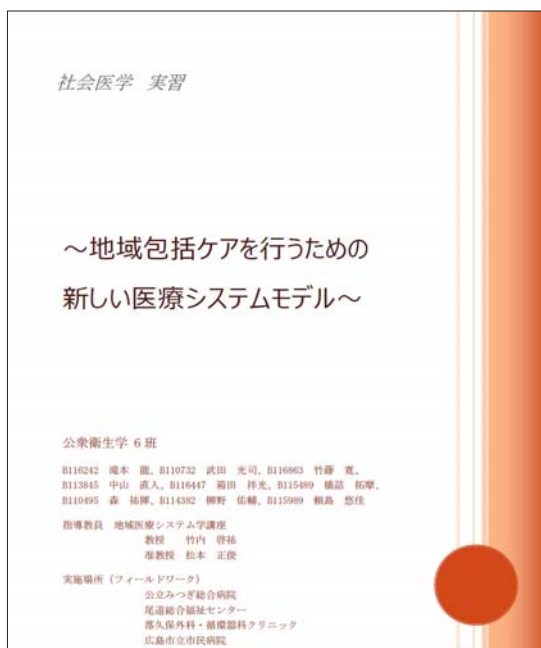
平成26年度、27年度と器官・システム病態制御学において、竹内は「地域医療」と題して日本国内の地域医療の現状や総合医育成の動きについて、松本は「世界の地域医療」と題して諸外国の地域医療の実情について説明しました。また愛媛大学地域医療学講座の川本龍一教授にお越しいただき愛媛県の地域医療の現状と対策について講義していただきました。

## ④1年生講義

医学科1年生を対象に竹内が「高齢者医療における倫理」と題して講義しました。

## ⑤4年生社会医学実習

平成26年4月～5月、医学科4年生9名を受け入れ、研究指導を行いました。公立みつぎ総合病院、尾道総合福祉センター、落久保外科・循環器クリニック、広島市民病院でインタビューを行い、都市型と地方型の地域包括ケアの在り方について調査しました。



平成27年4月～5月、医学科4年生8名を受け入れ、研究指導を行いました。広島大学病院、大崎上島消防署でインタビューを行い、ドクターヘリと救急艇の設備、出動回数、コストなどを調査しました。その結果を踏まえて離島における効率的、効果的な救急搬送のあり方について考察、提言を行いました。



## ⑥6年生卒業試験OSCE

医学教育センター兼務の松本が平成26年度、27年度の卒業試験OSCEの企画・運営を担当し、ステーション責任者や評価者の依頼、シナリオの取りまとめ、模擬患者との連絡、評価などを行いました。また竹内は実行委員長を担当しました。

## ⑦6年生卒業試験

松本が医学教育センターの業務として平成26年度、27年度の卒業試験の企画・運営を担当しました。卒業試験は平成26年度に大きく形式が変更され、複数科のブロック制によるマークシート試験になりました。この移行に伴い、試験問題作成依頼、問題の取りまとめ、試験の実施、採点、評価などを行いました。

## ⑧5、6年生アドバンスト臨床実習（臨床実習Ⅱ）

松本が医学教育センターの業務として平成26年度、27年度のアドバンスト臨床実習（臨床実習Ⅱ）の企画・運営を行いました。アドバンスト臨床実習は平成27年度から学外施設の参加を大幅に増やしたため、これに伴う各病院との連絡、実習日程のアレンジなども行いました。

## ⑨4年生臨床実習入門プログラム

平成26年度、27年度4年生臨床実習入門プログラムの企画、作成を行いました。また、プログラム内の採血実習、医療面接実習を担当しました。

## ⑩共用試験OSCE

竹内が実行委員長を担当しました。



### ⑪4年生医療面接実習（OSCE）

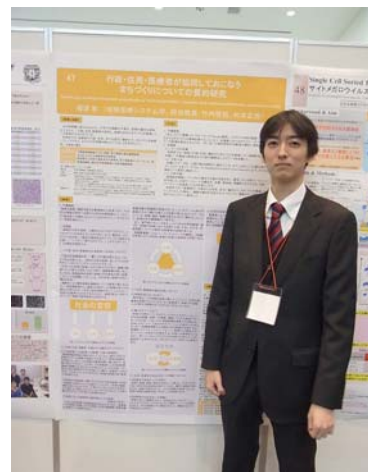
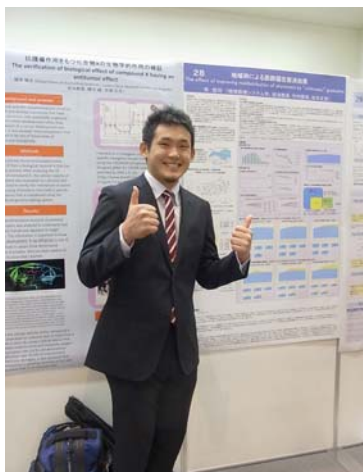
平成26年度、27年度医学科4年生の臨床実習入門プログラムにおいて、総合診療科とともに医療面接実習に関わり、共用試験（OSCE）を担当しました。

### ⑫1年生医療行動学

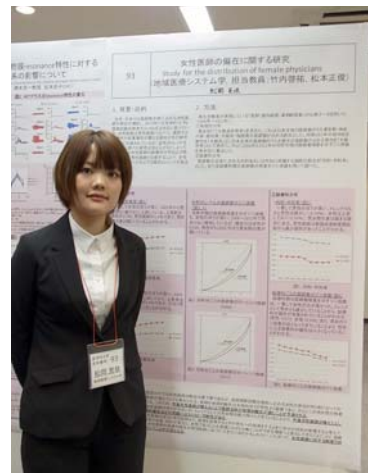
平成26年度、27年度医学科1年生を対象に医療行動学実習を5名ずつ2回実施しました。大学病院外来を患者の立場で移動して動線を確認し、患者受療行動や地域医療について話し合いました。

### ⑬4年生医学研究実習

平成26年度は2名の学生の担当講座となり、研究指導を行いました。1名はふるさと卒出身医師が県内の医師数および医師偏在に与える影響をシミュレーション解析しました。この研究は後日、論文として学術雑誌に掲載されました。もう1名は北海道、千葉、岡山での医療者による町づくりの事例について関係者からの聞き取り調査のデータをもとに質的研究を行いました。



平成27年度も2名を担当し、1名は女性医師の診療科偏在、地理的偏在に関する研究を行いました。もう1名は基本健診およびがん検診の受診率に関連する地域特性の研究を行いました。



### ⑭他大学講義

26年度に山口大学医学部3年生に松本がへき地医療の講義を行いました。

## ㊦ 研修医教育 藝州北部ヘルスケアネットワーク

平成21年より芸北地域等の医療支援を目的とした研修会が安佐市民病院土手慶五副院長を代表世話人として実施され、当講座の竹内は顧問として参画しています。

### ①広島大学病院の初期臨床研修医教育

平成22年度より広島大学病院総合内科・総合診療科の外来において、当講座スタッフが指導医となり初期臨床研修医の外来教育を行っています。

### ②卒後臨床研修管理委員会

上記委員として、医科研修医オリエンテーション「医療面接」や広島卒後臨床研修ネットワーク指導医講習会のタスクフォースを務めています。

## ㊦ その他

### ①地域医療に関する講演・啓発

第27回医療と倫理を考える会・広島において「広島県の医師偏在を考える!」、広島県国保診療施設協議会において「地域医療人材育成の実情と今後の方向性」などの講演、啓発活動を行いました。

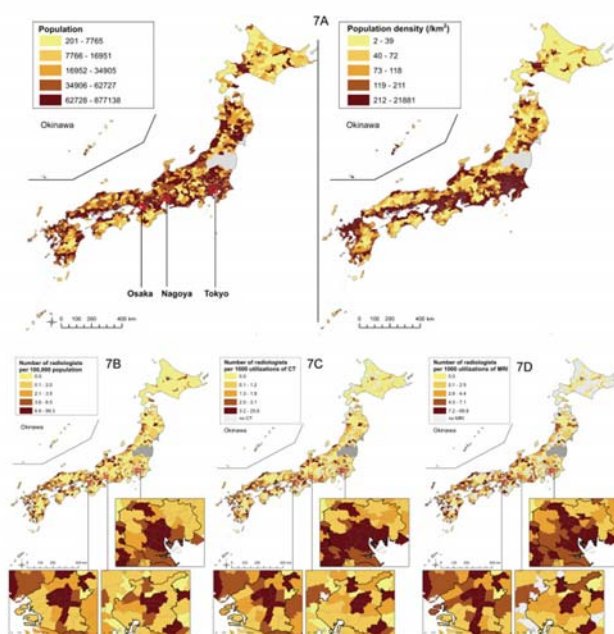
## ミッション②

地域医療課題の調査・研究：地政学的特性や地域住民の受療行動の把握など

### A 研究内容と成果

#### ①専門医療の地理的分布と集約化に関する研究

厚生労働科学研究費の研究班メンバーとして専門医療の地理的分野や集約化に関する研究を行いました。地理的分布の公平さが求められるプライマリ・ケアとは異なり、高度専門医療はある程度の集約化が必要です。今回の研究では専門医療の中でも特に産科医療と放射線診断に注目し我が国の現状を分析し、3本の原著論文を筆頭著者で発表しました。



#### ②地域枠出身医師の進路に関するコホート研究

文部科学省、厚生労働省、全国医学部長病院長会議の協力のもと、全国地域医療教育協議会（全国43大学の地域医療関連講座が加盟）の「地域枠出身医師の進路に関するコホート研究」の研究本部として、全国の大学医学部・医科大学に所属する地域枠学生、および都道府県の奨学金受給医学生の進路を追跡する研究を進めています。現在までに2か年分のベースラインデータを収集しました。今後、厚生労働省の「医師・歯科医師・薬剤師調査」の個票データとリンクさせることでフォローアップしていく予定です。

#### ③その他研究

糖尿病、脳卒中、高血圧などの疫学研究に参加し、成果が論文として出版されました。医学研究実習で当講座に配属された学生が行ったふるさと枠の効果に関するシミュレーション研究が論文として出版されました。へき地における医療アクセスの研究にも参加し、成果が論文として出版されました。広島大学病院のCOPD患者の疫学研究も進めています。また、医師の地理的偏在に関する国際比較研究を共同研究として行っております。



## B 2014-2015研究実績一覧

(2014-2015合計インパクトファクター 18.5)

### ■ 原著論文

1. Kashima S, Inoue K, **Matsumoto M**, **Takeuchi K**: Non-physician community in Japan: is it still disadvantaged? Rural Remote Health. 14: 2907, 2014 (epub)
2. Matsubara S, Ohkuchi A, Kamesaki T, Ishikawa S, Nakamura Y, **Matsumoto M**: Supporting rural remote physicians to conduct a study and write a paper: Experience of Clinical Research Support Team (CRST)-Jichi. Rural Remote Health 14: 2883, 2014 (epub)
3. Hoshide S, Kario K, Yano Y, Haimoto H, Yamagiwa K, Uchiba K, Nagasaka S, Matsui Y, Nakamura A, Fukutomi M, Eguchi K, Ishikawa **J; J-HOP Study Group**. Association of morning and evening blood pressure at home with asymptomatic organ damage in the J-HOP Study. Am J Hypertens. 27 (7): 939-47, 2014
4. Kashima S, Inoue K, **Matsumoto M**, Akimoto K. Prevalence and characteristics of non-obese diabetes in Japanese men and women: the Yuport Medical Checkup Center Study. J Diabetes. 7 (4) 523-30, 2015.
5. **Matsumoto M**, Koike S, Matsubara S, Kashima S, Ide H, Yasunaga H. Selection and concentration of obstetric facilities in Japan: Longitudinal study based on national census data. J Obstet Gynaecol Res. 41 (6): 919-925, 2015
6. **Matsumoto M**, Koike S, Kashima S, Awai K. Geographic distribution of CT, MRI and PET devices in Japan: A longitudinal analysis based on national census data. PLoS One 10 (5): e0126036, 2015 (epub)
7. Koike S, Shimizu A, **Matsumoto M**, Ide H, Atarashi H, Yasunaga H. Board-certified surgeons' career pathways in Japan. Surg Today 2015 (In Press)
8. Kashima S, Inoue K, **Matsumoto M**, Eboshida A, **Takeuchi K**. Association between remoteness to a healthcare facility and incidence of ambulance calls in rural areas of Japan. Health Serv Res Manag Epidemiol 2015 (in press)
9. Kario K, Hoshide S, Haimoto H, Yamagiwa K, Uchiba K, Nagasaka S, Yano Y, Eguchi K, Matsui Y, Shimizu M, Ishikawa J, Ishikawa S; **J-HOP study group**. Sleep blood pressure self-measured at home as a novel determinant of organ damage: Japan Morning Surge Home Blood Pressure (J-HOP) study. J Clin Hypertens (Greenwich). 17 (5): 340-8, 2015
10. **Matsumoto M**, Koike S, Kashima S, Awai K. Geographic distribution of radiologists and utilization of teleradiology in Japan: a longitudinal analysis based on national census data. PLoS One 10 (9): e0139723, 2015 (epub)

### ■ 総説論文

1. **Matsumoto M**, **Takeuchi K**, Yokobayashi K, Tazuma S: Geographic maldistribution of physicians in Japan: increasing the number of generalists is one solution. General Medicine 16 (4): 1-5, 2015
2. 角悠司、松本正俊、竹内啓祐：広島大学医学部ふるさと枠による県内医師偏在改善効果 広島医学 68 (11)：575-582, 2015
3. 竹内啓祐：超高齢社会の医療—地域包括ケア時代の在宅医療—。広島医学69 (2)：111-5, 2016

## ■ 報告書

1. 松本正俊：悪性腫瘍手術、分娩、および画像診断件数の地理的分布と集約度の研究。平成25年度総括・分担研究報告書。小池創一 研究代表者。平成26年3月
2. 松本正俊、鹿嶋小緒里：産科医療および画像診断機器の地理的分布と集約度の研究。平成26年度総括・分担研究報告書。小池創一 研究代表者。平成27年3月
3. 服部文子：中山間地の療養場所の希望に関するアンケート調査。被災地の再生を考慮した在宅医療の構築に関する研究。平成26年度総括・分担研究報告書。大島伸一 研究代表者。平成27年3月

## ■ 競争的外部研究費獲得

### 代表研究者として

1. 平成26年度文部科学省科学研究費補助金（基盤C） 104万円
2. 平成27年度文部科学省科学研究費補助金（基盤C） 104万円
3. 平成28～29年度文部科学省科学研究費補助金（基盤C） 221万円（内定）

### 分担研究者として

1. 平成26年度文部科学省科学研究費補助金（基盤C）（分担松本）
2. 平成26～27年度厚生労働省科学研究費補助金（政策科学総合研究事業）（分担松本）
3. 平成27年度厚生労働省科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）（分担松本）

## ■ 学術誌編集

2010年から学術誌Rural and Remote Healthのアジア地区編集長（Asian Regional Editor）を松本が務め、2014～2015年にアジア地区からの投稿論文約230本の採否決定を行った。

## ■ 招待講演等

1. Matsumoto, M. Improving geographic distribution of physicians in Japan through reform of medical education. International Symposium on Bridging Medical Divide, Presidential Committee on Regional Development & Seoul National University, Seoul, Korea, April 2015
2. 竹内啓祐「広島県の医師偏在を考える！」（平成26年4月14日）第27回医療と倫理を考える会・広島（広仁会館）
3. 竹内啓祐「地域包括ケアの課題と展望」（平成26年5月15日）日本医業コンサルタント協会（広島市）
4. 竹内啓祐「医師確保対策」（平成26年5月29日）広島県医師会勤務医部会（広島県医師会館）
5. 竹内啓祐「地域医療の展開と新たな専門医制度」（平成26年6月14日）第5回京都府地域医療推進フォーラム（京都市）
6. 竹内啓祐「多職種連携で整える北広島町の地域包括システム」（平成26年7月24日：北広島町）
7. 竹内啓祐「地域医療人材育成の実情と今後の方向性」（平成26年8月1日）広島県国保診療施設協議会（広島市）
8. 竹内啓祐「施設における看取りの充実に向けて」企画・座長（平成26年8月8日）広島県地域包括ケア推進センター看取り部会研修会（広島市）
9. 松本正俊、小川貴彦、鹿嶋小緒里、竹内啓祐：広島県における透析医療の地域差—アクセスの分析第23回中国腎不全研究会（広島市）（平成26年10月26日）
10. 竹内啓祐「地域包括ケア時代の大学病院の役割」（平成26年11月6日：広島大学病院）
11. 竹内啓祐「在宅での看取りを考える」企画・座長（平成26年12月13日）第23回瀬戸内福祉と医療を

語る会（広島市）

12. 竹内啓祐「安心！広島の医療」（平成26年11月17日）アカシア会講演会（広島市）
13. 竹内啓祐「地域の在宅医療を支えるために」（平成27年2月18日）広島市中区在宅医療研修会
14. 竹内啓祐「西区在宅医療推進研修会」（平成27年2月21日）平成26年度人材育成基盤整備事業
15. 竹内啓祐「地域包括ケアと薬剤師の関わり」（平成27年2月22日）日本プライマリ・ケア学会認定薬剤師講習会（広島市）
16. 松本正俊：地域の現場で研究すること 日本プライマリ・ケア学会認定薬剤師講習会（広島市）（平成27年2月22日）
17. 竹内啓祐「南区在宅医療推進研修会」（平成27年2月22日）平成26年度人材育成基盤整備事業
18. 竹内啓祐「平成26年度在宅医療推進拠点整備事業報告会」座長（平成27年3月22日）
19. 竹内啓祐「平成26年度広島市認知症サポート医フォローアップ研修会」座長（平成27年3月26日）
20. 竹内啓祐「佐伯区在宅医療推進研修会」（平成27年3月29日）平成26年度人材育成基盤整備事業
21. 竹内啓祐「地域包括ケア構築に向けた在宅医療・介護連携について」（平成27年3月29日）広島中央地域保健対策協議会在宅医療・介護等連携研修会（東広島市）
22. 竹内啓祐「地域医療よもやま話」（平成27年5月29日：南区医師会）
23. 竹内啓祐「超高齢社会におけるがん診療と地域医療」（平成27年7月9日）広島大学病院がん医療従事者研修会（広島市）
24. 竹内啓祐「ふるさと卒のキャリア形成」（平成27年7月29日）広島県診協平成27年度医師等確保対策研究協議会
25. 竹内啓祐「広島県における医療と介護の連携推進事業」（平成27年9月8日）平成27年度中国四国ブロック保健師等研修会（広島市）
26. 竹内啓祐「超高齢社会の医療―地域包括ケア時代の在宅医療」（平成27年11月8日）第68回広島医学会総会シンポジウム
27. 竹内啓祐「安心できる暮らしのために―地域包括ケアシステムとは」（平成27年11月14日）中区在宅医療・介護連携講演会
28. 竹内啓祐「その人なりの看取りを考える―多様なケアの可能性―」企画・座長（平成27年12月12日）第23回瀬戸内福祉と医療を語る会（広島市）
29. 竹内啓祐「第8回看護師特定行為研修指導者講習会」タスクフォース（平成28年1月10日）全日本病院協会（広島市）
30. 竹内啓祐「高齢者の尊厳ある看取りとは―救急車を呼ぶとき・呼ばないとき―」（平成28年3月8日）平成27年度新基金事業多職種連携研修会講演（広島市）
31. 竹内啓祐「助け合いのあるあったかくて元気な地域をつくろう」（平成28年3月15日：神石高原町）
32. 竹内啓祐「地域住民とともに創る我が町の地域包括ケアとは」座長（平成28年3月26日）西区医師会市民公開講座シンポジウム（広島市）
33. 服部文子「認知症Q & A. 認知症を理解する講座」（平成27年9月28日）（神石高原町）

## ■ 学会発表

1. 竹内啓祐「専門医制度を見据えたプライマリ・ケア医のキャリアプラン―医育機関の立場から―」（平成26年5月11日）第5回プライマリ・ケア連合学会学術大会インタレストグループ（岡山市）
2. 竹内啓祐「超高齢社会の医療―地域包括ケア時代の在宅医療」（平成27年11月8日）第68回広島医学会総会シンポジウム（広島市）
3. 服部文子、阿嶋孟嘉「療養場所の希望に関するアンケート調査 パート2」（平成26年6月）第56



回日本老年医学会学術集会。(福岡市)

## ■ コース開催

1. 服部文子 第13回神石ICLSコース。神石高原町。平成26年 9 月
2. 服部文子 第 3 回寺岡記念ICLSコース。府中市。平成27年 1 月
3. 服部文子 第 4 回寺岡記念ICLSコース。府中市。平成27年10月

## ミッション③

### 地域医療課題への対応：地域医療に求められる医療人（医師）養成・育成システムの立案・実施など

#### ①ふるさと卒学生のキャリアプラン作成

広島県、広島県地域保健医療推進機構、広島大学医学部、および広島大学病院の各診療科と協議しながら、ふるさと卒学生のキャリアプラン第二版を平成26年に作成しました。広島大学病院で後期研修プログラムを持つ27診療科すべてからキャリアプランを提出いただきました。キャリアプラン作成にあたって、ふるさと卒学生が将来に対して不安を感じることも無く、入学時の約束事を遵守しながら意欲を持ってキャリア形成していけるよう配慮しております。尚、現在専門医制度改革にともないキャリアプランの修正が必要となっているため、平成28年度中に第三版を作成すべく、各診療科と協議を進める予定です。

#### ②ふるさと卒の配置に関する取り決め事項の決定

新たな専門医制度への対応も考慮しつつ、地域医療支援センター長および医学部長の指導のもとで学内外の意向も配慮した「ふるさと卒医師等配置調整手順」が作成され関係機関の承認をいただきました。平成28年度からはこの手順に基づいて、ふるさと卒卒業医師等の配置が決定されていくこととなります。

#### ③医学部FD

5年生の臨床実習Ⅰにおける地域医療実習の質向上を目的として毎年Faculty Development (FD) を行っています。

平成26年3月15日に開催したFDでは5年生の地域医療実習の協力病院の院長、指導医の先生方にお集まり頂き、各種報告や具体的な方略あるいは教育目標などについて検討しました。実習学生の優秀レポートの選定も行いました。また三重大学伊賀地域医療学の高村昭輝先生

をお招きし、地域基盤型教育についての講演をしていただきました。（ご出席いただいた施設：庄原赤十字病院、安芸太田病院、神石高原町立病院、公立世羅中央病院、公立みつぎ総合病院、寺岡記念病院、雄鹿原診療所、市立三次中央病院）



平成27年3月14日にもFDを開催しました。地域医療実習等に関わっている施設の代表者に集まっていただき開催しました。各施設の1年間の報告とともに、学生からの逆評価やアンケート結果を分析し、今後の課題を検討しました。学内教員および各病院長の評価に基づいて学生の優秀実習レポート賞を決定しました。（ご出席いただいた施設：庄原赤十字病院、安芸太田病院、神石高原町立病院、公立世羅中央病院、公立みつぎ総合病院、寺



岡記念病院)

平成28年3月19日のFDも実習参加病院にお集まりいただき、1年間の報告、学生アンケートの結果分析、翌年度に向けた検討を行いました。例年通り参加者の投票により優秀レポートの選出を行いました。(ご出席いただいた施設：庄原赤十字病院、安芸太田病院、神石高原町立病院、公立世羅中央病院、公立みつぎ総合病院、寺岡記念病院、雄鹿原診療所、吉和診療所)



#### ④全国地域医療教育協議会

全国の地域医療教育に関する情報交換の場として上記協議会が設置され、竹内が世話人を務めています。教員の資質向上に関する事業や調査研究を実施しており、地域医療教育や地域枠に関する最新の情報を得ています。本協議会が実施する「地域枠出身医師の進路に関するコホート研究」の研究本部は広島大学に置かれ、松本が中心となって進めています。



## ミッション④

### 地域医療体制確保のための県内医療機関等に対するコーディネート業務と支援：広島県地域保健医療推進機構が行う業務に対する技術的助言・協力等

#### ①広島県地域医療支援センター

広島県地域保健医療推進機構地域医療推進部が平成26年7月1日より広島県地域医療支援センターと改称されましたが、ふるさと生の教育、キャリアプラン作成において当講座はこれまで以上に緊密に連携を取り合っています。夏季、冬季および春季休暇における地域医療セミナーの共同開催を始め、センターが開催する若手医師等育成支援事業選考委員会、広島県へき地医療支援機構運営委員会などの委員を務めています。

#### ②広島県地域保健対策協議会（地対協）

広島県地域保健対策協議会（地対協）の医師不足対策専門委員会、医療・介護連携推進専門委員会の委員として協議に参画しました。

#### ③広島県における地域包括ケア体制の確保

平成24年6月に山口昇先生をセンター長として広島県地域包括ケア推進センターが設置され、竹内は多職種連携推進ワーキングチームリーダーおよび看取り検討部会長を務めました。また、広島県医師会の在宅医療推進委員会委員長および広島市在宅医療・介護推進委員会委員長を務め、広島県における地域包括ケア/在宅医療の推進のためのさまざまな協議や事業に参画しました。

#### ④国診協老人保健福祉調査研究会

上記研究会の委員を竹内が務め平成26年度は「認知症高齢者等にやさしい地域づくりの推進に関する調査研究事業」に、平成27年度は「地域の実情に応じた在宅医療・介護連携を推進するための多職種研修プログラムに関する調査研究事業」に参画しました。

#### ⑤中山間地医療機関への診療支援

地域医療実習受け入れ機関である庄原赤十字病院、神石高原町立病院、安芸太田病院、公立世羅中央病院、公立みつぎ総合病院の外来診療の応援を週1～2回行いました（外来実習指導を兼ねて）。また当直医不足である神石高原町立病院（月4回程度）の夜間当直支援も行いました。